

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成 21 年 12 月】

■調査概要

- 調査期間：平成22年1月4日～1月25日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況：建設業18企業、製造業24企業、卸売業16企業、小売業28企業、
飲食業17企業、サービス業（運輸、不動産仲介業を含む）40企業
合計企業140企業
- 調査項目：12月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価状況
向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲47.8)よりマイナス幅が2.3ポイント縮小して▲45.5となった。小売業、飲食業でマイナス幅が縮小した。逆に製造業、卸売業でマイナス幅が拡大した。建設業、サービス業は前月と同水準であった。

○全産業合計の水準DIは、前月(▲55.0)よりマイナス幅が6.1ポイント縮小して▲48.9となった。建設業、小売業、飲食業でマイナス幅が縮小した。逆に卸売業でマイナス幅が拡大した。製造業、サービス業は前月と同水準であった。

業況判断DI

	業況(前年同月比)				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	3.5 (2.9)	47.6 (46.4)	49.0 (50.7)	▲45.5 (▲47.8)	4.9 (2.1)	41.3 (40.7)	53.8 (57.1)	▲48.9 (▲55.0)
建設業	11.1 (5.6)	55.6 (66.7)	33.3 (27.8)	▲22.2 (▲22.2)	11.1 (5.6)	66.7 (55.6)	22.2 (38.9)	▲11.1 (▲33.3)
製造業	4.2 (4.5)	37.5 (45.5)	58.3 (50.0)	▲54.1 (▲45.5)	8.3 (4.5)	33.3 (40.9)	58.3 (54.5)	▲50.0 (▲50.0)
卸売業	12.5 (5.3)	18.8 (42.1)	68.8 (52.6)	▲56.3 (▲47.3)	6.3 (0.0)	12.5 (31.6)	81.3 (68.4)	▲75.0 (▲68.4)
小売業	0.0 (0.0)	67.9 (45.5)	32.1 (54.5)	▲32.1 (▲54.5)	3.6 (0.0)	39.3 (31.8)	57.1 (68.2)	▲53.5 (▲68.2)
飲食業	0.0 (0.0)	41.2 (33.3)	58.8 (66.7)	▲58.8 (▲66.7)	5.9 (0.0)	35.3 (33.3)	58.8 (66.7)	▲52.9 (▲66.7)
サービス業	0.0 (2.3)	50.0 (45.5)	50.0 (52.3)	▲50.0 (▲50.0)	0.0 (2.3)	50.0 (45.5)	50.0 (52.3)	▲50.0 (▲50.0)

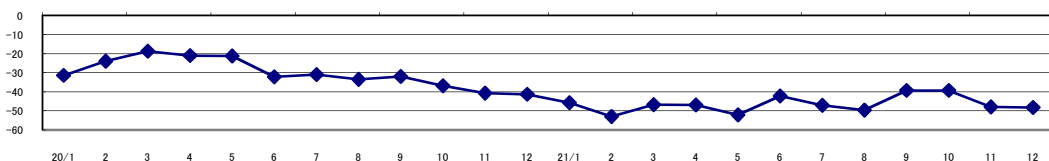
()内は前月データ

2. 売上高DI(前年同月比)

○全産業合計の売上高DIは、前月(▲47.9)よりマイナス幅が0.3ポイント拡大し▲48.2となった。

○業種別に見ると、逆に建設業、製造業でマイナス幅が拡大した。卸売業、小売業、飲食業、サービス業でマイナス幅が縮小した。

売上高DI(全産業・前年同月比)の推移



【対前年同月売上高業種別DIの推移】

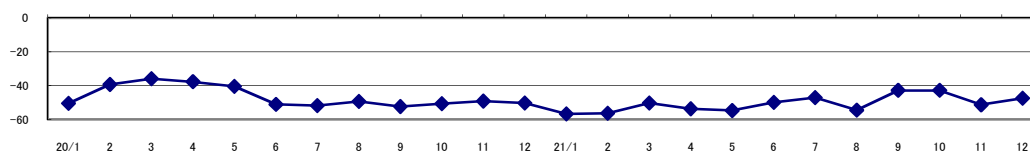
	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲ 45.8	▲ 41.5	▲ 46.8	▲ 46.9	▲ 52.1	▲ 42.2	▲ 47.1	▲ 49.6	▲ 39.3	▲ 41.2	▲ 47.9	▲ 48.2
建設業	▲ 61.1	▲ 36.8	▲ 47.4	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 33.3
製造業	▲ 56.0	▲ 52.2	▲ 54.6	▲ 40.9	▲ 70.8	▲ 58.3	▲ 55.0	▲ 61.9	▲ 36.3	▲ 54.6	▲ 45.5	▲ 54.1
卸売業	▲ 55.5	▲ 73.7	▲ 68.4	▲ 57.9	▲ 70.0	▲ 64.7	▲ 61.1	▲ 52.6	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 63.2	▲ 50.0
小売業	▲ 31.0	▲ 32.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 57.7	▲ 19.3	▲ 34.6	▲ 37.0	▲ 48.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 46.4
飲食業	▲ 57.9	▲ 35.3	▲ 53.3	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 58.8
サービス業	▲ 34.8	▲ 31.8	▲ 37.5	▲ 47.7	▲ 40.5	▲ 34.1	▲ 55.0	▲ 51.2	▲ 29.5	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 47.5

3. 営業利益DI(前年同月比)

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲51.4)よりマイナス幅が3.9ポイント縮小し▲47.5ポイントとなった。

○業種別に見ると、建設業、製造業でマイナス幅が拡大した。逆に卸売業、小売業、飲食業でマイナス幅が縮小した。サービス業は前月と同水準であった。

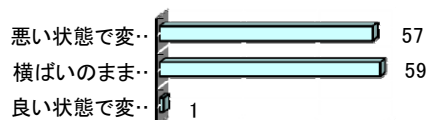
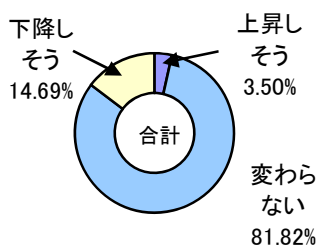
営業利益DI(全産業・前年同月比)の推移



【対前年同月営業利益業種別DIの推移】

	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全 体	▲ 56.8	▲ 56.4	▲ 50.3	▲ 53.8	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 54.6	▲ 42.9	▲ 48.9	▲ 51.4	▲ 47.5
建設業	▲ 83.3	▲ 52.7	▲ 57.9	▲ 77.8	▲ 58.8	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 33.3	▲ 44.4
製造業	▲ 72.0	▲ 65.2	▲ 59.1	▲ 54.6	▲ 58.3	▲ 70.8	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 40.9	▲ 50.0
卸売業	▲ 61.1	▲ 73.6	▲ 57.9	▲ 68.4	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 50.0	▲ 68.4	▲ 56.2	▲ 41.2	▲ 57.9	▲ 43.8
小売業	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 61.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 40.8	▲ 40.0	▲ 40.7	▲ 63.7	▲ 39.3
飲食業	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 66.7	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 58.8
サービス業	▲ 45.6	▲ 52.3	▲ 42.5	▲ 47.8	▲ 40.5	▲ 39.0	▲ 52.5	▲ 55.8	▲ 40.9	▲ 47.7	▲ 50.0	▲ 50.0

向こう3ヶ月の見通し



平成22年1月～平成22年3月の見通しDIは「上昇しそう」が前月調査に比べ1.35ポイント拡大して3.50%。「下降しそう」が3.89ポイント拡大して18.57%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.5)、製造業(0)、卸売業(▲6.3)、小売業(▲21.4)、飲食業(▲29.4)、サービス業(▲7.5)であった。

➡上昇しそうでは、「3月の年度末までに受注量を上昇させる」(土木工事)、「1月は良くないが2月、3月は受注が見込め良くなると期待している」(製本)、「季節的な上昇」(繊維製品)、「今期の最終投資が決まった」(機械設計)

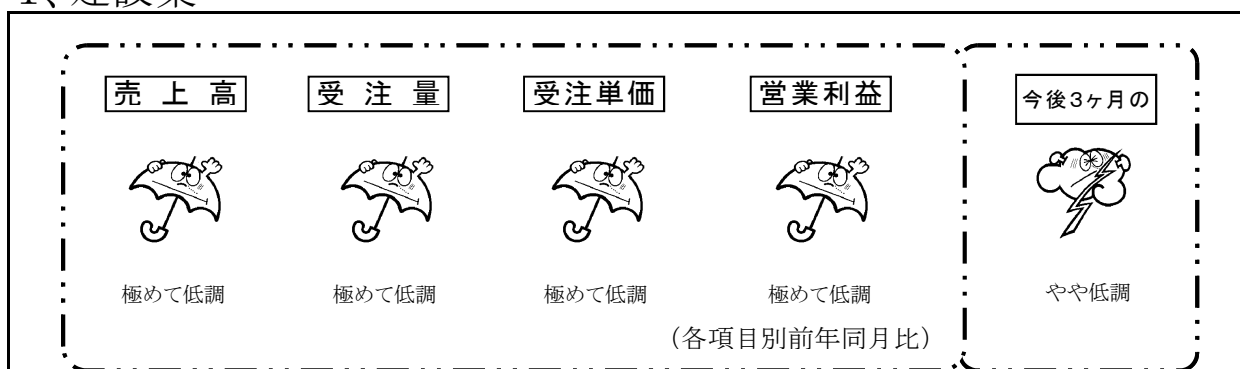
➡下降しそうでは、「冬場の仕事の確保ができていない」(建築工事)「公共工事の減少」(管工事)、「1月、2月は毎年動きが悪い」(布団)、「例年冬場は寒さのため来客数が減る」(手芸材料)、「デフレによる客単価の低迷が続く」(ラーメン)、「政治や経済の不安が重圧」(建設設計)といった声が

業種別景況

DI君の景況判断



1、建設業



【項目別DIの推移】

	20年12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 44.4	▲ 61.1	▲ 42.1	▲ 47.4	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 33.3
受注量	▲ 44.4	▲ 61.1	▲ 42.1	▲ 52.6	▲ 55.5	▲ 47.0	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 60.0	▲ 42.9	▲ 35.3	▲ 27.8	▲ 33.3
受注単価	▲ 50.0	▲ 61.1	▲ 73.7	▲ 57.9	▲ 77.8	▲ 29.4	▲ 55.6	▲ 44.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 41.2	▲ 44.4	▲ 38.9
営業利益	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 52.7	▲ 57.9	▲ 77.8	▲ 58.8	▲ 44.4	▲ 31.5	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 33.3	▲ 44.4
見通し	▲ 16.7	▲ 27.8	▲ 5.2	▲ 21.0	▲ 5.5	▲ 17.6	11.1	▲ 10.5	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 23.5	▲ 5.6	▲ 5.5

経営者の目・見方・etc

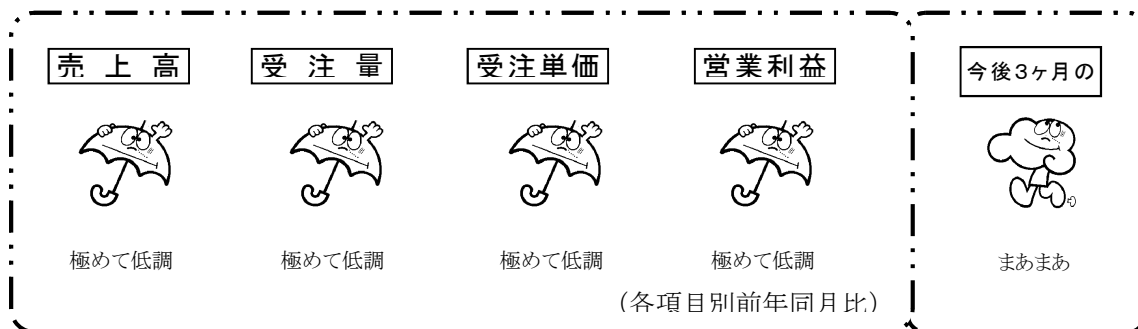
管工事

・景気が悪い状況で一般建築工事が無い。漏水修理などの仕事があるのみで収益は全く上昇しない。寒中の屋内工事の受注が1件あっただけである。

鉄工

・3月頃までは受注量はあるが、4月以降は少なくなる見通し。
・景気が非常に悪く民間での設備投資が見られない。先行きは不安である。

2、製造業



【項目別DIの推移】

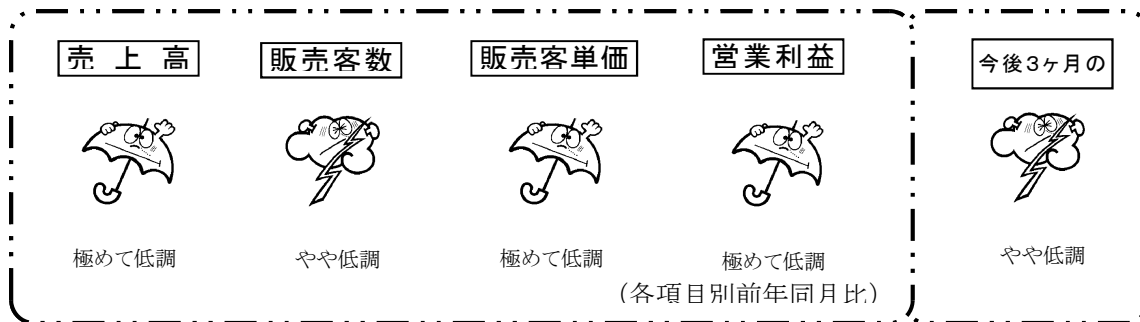
	20年12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 44.0	▲ 56.0	▲ 56.6	▲ 54.6	▲ 40.9	▲ 70.8	▲ 58.3	▲ 55.0	▲ 64.9	▲ 36.3	▲ 54.6	▲ 45.5	▲ 54.1
受注量	▲ 48.0	▲ 60.0	▲ 52.2	▲ 54.6	▲ 31.9	▲ 58.3	▲ 75.0	▲ 57.9	▲ 66.6	▲ 31.8	▲ 63.7	▲ 40.9	▲ 50.0
受注単価	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 39.2	▲ 27.3	▲ 40.9	▲ 45.8	▲ 37.5	▲ 36.9	▲ 23.8	▲ 36.4	▲ 41.0	▲ 31.8	▲ 37.5
営業利益	▲ 64.0	▲ 72.0	▲ 65.2	▲ 59.1	▲ 54.6	▲ 58.3	▲ 70.8	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 40.9	▲ 50.0
見通し	▲ 28.0	▲ 16.0	▲ 34.8	▲ 31.9	▲ 27.3	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 10.0	4.8	▲ 4.5	▲ 9.1	▲ 22.7	0.0

経営者の目・見方・etc

金属塗装
菓子

- ・景気が底を打った感じがあるが、大きな上昇力は感じられない。
- ・12月も大きく売上を下げることなく、この経済状況の中、よく健闘したと感じる。来年もコツコツと良い商品を提供するのみである。
- ・菓子はあまり景気に左右されないとわれてきたが、10月以降は受注が減少してきている。12月も年末らしい注文もほとんどなかった。

3、卸売業



【項目別DIの推移】

	20年12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 56.2	▲ 55.5	▲ 84.2	▲ 68.4	▲ 57.9	▲ 70.0	▲ 64.7	▲ 61.1	▲ 52.6	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 63.2	▲ 50.0
販売客数	▲ 31.3	▲ 38.9	▲ 36.8	▲ 31.6	▲ 31.6	▲ 40.0	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 10.6	▲ 25.0	0.0	▲ 5.3	▲ 12.5
販売客単価	▲ 37.5	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 31.6	▲ 36.8	▲ 45.0	▲ 35.3	▲ 23.5	▲ 26.3	▲ 50.0	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 31.2
営業利益	▲ 62.5	▲ 61.1	▲ 73.6	▲ 57.9	▲ 68.4	▲ 75.0	▲ 70.6	▲ 50.0	▲ 68.4	▲ 56.2	▲ 41.2	▲ 57.9	▲ 43.8
見通し	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 31.6	▲ 15.8	▲ 10.5	▲ 15.0	▲ 17.6	▲ 11.1	▲ 15.8	▲ 18.8	▲ 17.6	▲ 10.5	▲ 6.3

経営者の目・見方・etc

電設資材

・設備投資が下降したまま公共投資もない。取引先の建設業、電気工事業でも仕事が無い状況が続いている。

機械工具

・大不況に突入し丸一年、ようやく上向きの話が出てきた。本格的か、一時的かがわからない。

・年間で見ると下から2番目の悪い月であった。

金属製品

・大手メーカーが海外に生産を拡大しており、金属需要が海外で高まってきている。

木材・建材

・大口取引先の倒産が相次いだ影響が出ている。与信管理を徹底しないとイケない。

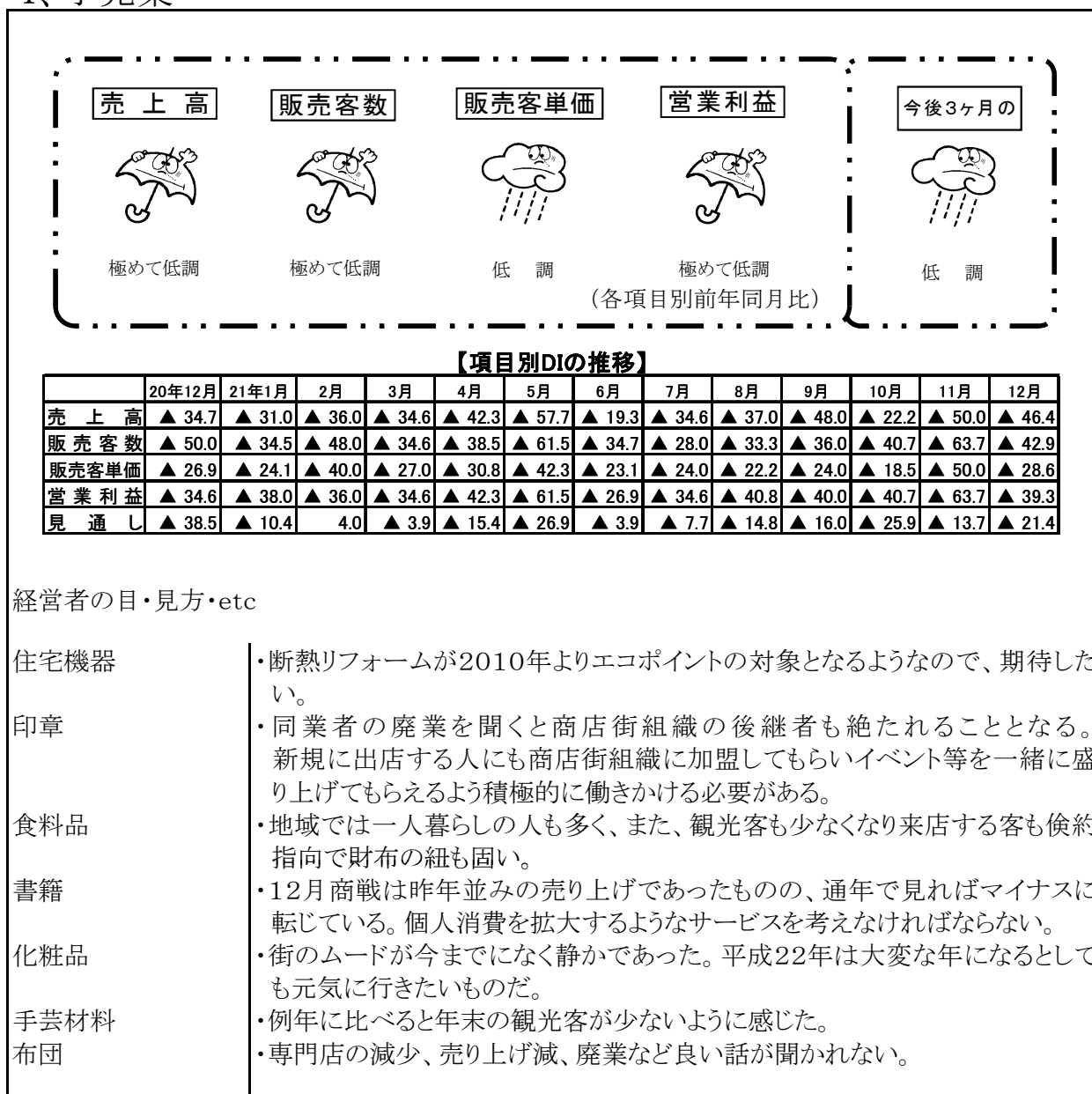
土産品

・松本への観光客は増えているという実感はない。あめ市などのイベントは集客には必要だと思う。

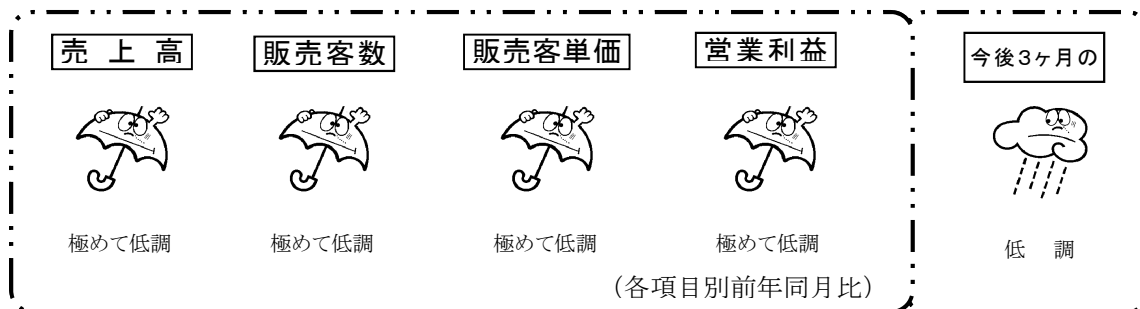
青果

・12月は年末から年始にかけて長期の休みがあるため販売に期待していたが、野菜・果実共に中旬まで単価安で推移し、下旬に入ってから寒波があったため入荷減の単価高の品物もあったが、全体から見ると入荷101%、単価94%で終了した。消費低迷からスーパーの販売単価が下がっているため、中間的立場にある市場はこれから新たな販売対応を考えなければならない

4、小売業



5、飲食業



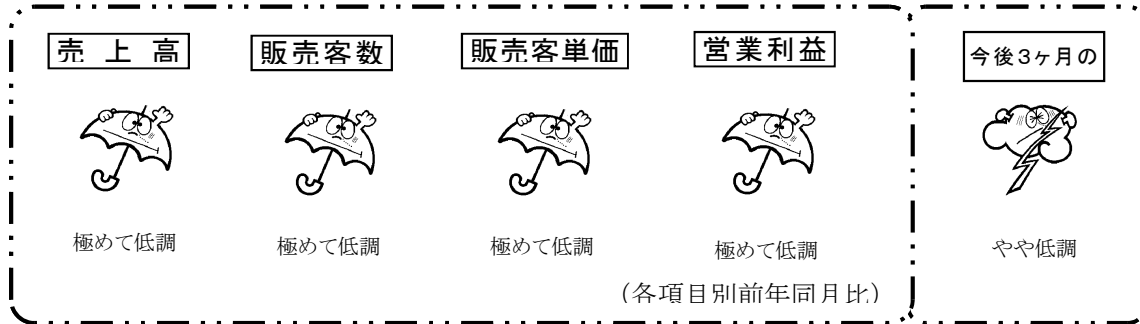
【項目別DIの推移】

	20年12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 66.7	▲ 57.9	▲ 70.6	▲ 53.3	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 47.1	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 58.8
販売客数	▲ 60.0	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 60.0	▲ 31.2	▲ 29.5	▲ 68.8	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 60.0	▲ 52.9
販売客単価	▲ 46.7	▲ 52.6	▲ 58.8	▲ 53.3	▲ 56.3	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 31.3	▲ 11.1	▲ 31.2	▲ 46.7	▲ 47.1
営業利益	▲ 80.0	▲ 63.1	▲ 70.6	▲ 66.7	▲ 43.8	▲ 47.0	▲ 68.8	▲ 52.9	▲ 43.8	▲ 33.4	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 58.8
見通し	▲ 40.0	▲ 26.3	▲ 5.9	6.7	▲ 6.2	▲ 5.9	0.0	0.0	▲ 12.5	▲ 22.2	▲ 18.7	▲ 33.3	▲ 29.4

経営者の目・見方・etc

- レストラン
 - ・会社関係の飲み会が少なくなり、ランチタイムの若い奥さん達の食事会も少なくなった。
- カレー
 - ・12月は毎年あまりよくないが、今年は特に静かな一ヶ月であった。駐車場も空車が多く、人の流れも少なく、縄手通りも年末に近づくと活気が出て賑わっているが今年は違った。新年に期待する。
- 中華料理
 - ・12月に少しだが予約が入りだした。毎月思うのだが人が街に出てもらいたいものだ。
- 郷土料理
 - ・長年続いていた大きな会が中止になり、売上が減少すると思われていたが、少人数の利用があったので、何とか例年並みにはなった。「また来ました」「また来ます」といった客の声に支えられた一年であった。
- 料理
 - ・期待していた12月の売上が通常の前月並みという状態で終わった。「来年はいい年に」とか「こんな計画でいこう」と思っていたとしてもイマイチ腹に力が入らない。店を閉めるという選択肢は悲観的すぎることもある。
- 仕出し料理
 - ・12月始めはインフルエンザが猛威を振っていた。年末の仕事に支障が出ないように季節性インフルエンザの予防接種は社員全員にして対処した。前年比の売り上げは下回ったが、元気に一年の締めくくりができたことが幸いであった。
- 寿司
 - ・寒さもあまり気にならず、降雪もほとんどない。天候としては良い月であった。そのせいか人出もそこそこあり、12月らしい活気ある実りある月だったように思う。「おせち料理」は限定数を遥かに越える注文があり、断る状況にまでなった。12月31日の年とり用の寿司も注文が殺到し、嬉しい悲鳴となった。しかし、12月末の仕入は何故か高騰傾向にあり、かといって売価に転換はできなかった。忙しい割には利益が望めない薄利多売となった。
 - ・食事をしてアルコールを飲んでも代行を使わず迎えに来てもらう等、客の消費動向が変わってきているを感じる。
- ラーメン
 - ・デフレ現象が続く、周りを見ても安価になっているが、これでは経済の活性化にはならない。今後の見通しが大変気になる。
- そば
 - ・忘年会の予約等は例年並みであったが、客単価が上がらず苦戦した。駅周辺では生ビールが1杯100円や飲み放題1,000円など、そこまでしないと集客できないのかと大変な時代であると感じる。

6、サービス業



【項目別DIの推移】

	20年12月	21年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 28.9	▲ 34.8	▲ 45.4	▲ 37.5	▲ 47.7	▲ 40.5	▲ 34.1	▲ 55.0	▲ 54.2	▲ 29.5	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 47.5
販売客数	▲ 28.9	▲ 26.1	▲ 47.7	▲ 35.0	▲ 38.6	▲ 47.7	▲ 41.4	▲ 45.0	▲ 44.2	▲ 27.3	▲ 50.0	▲ 52.2	▲ 42.5
販売客単価	▲ 33.4	▲ 28.3	▲ 31.9	▲ 35.0	▲ 43.2	▲ 31.0	▲ 24.4	▲ 35.0	▲ 30.2	▲ 27.2	▲ 29.6	▲ 34.1	▲ 32.5
営業利益	▲ 37.8	▲ 45.6	▲ 52.3	▲ 42.5	▲ 47.8	▲ 40.5	▲ 39.0	▲ 52.5	▲ 55.8	▲ 40.9	▲ 47.7	▲ 50.0	▲ 50.0
見通し	▲ 33.4	▲ 23.9	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 9.1	▲ 9.5	▲ 4.9	▲ 5.0	▲ 2.4	▲ 13.6	▲ 6.8	▲ 15.9	▲ 7.5

経営者の目・見方・etc

機械設計

- ・設備は増やさずに生産を増やしているが、一部で海外の大量受注により部品入手が難しくなってきたものもある。しかし全体では少しではあるが回復の兆しが見えてきている。

自動車整備

- ・建設、建築の不況の影響がジワジワ押し寄せて来ている気がする。ボーナスの話も良い話は聞こえてこない。年度末までには、さらに厳しくなる予想。

温泉旅館

- ・前年同月と比較すると大幅な落ち込みとなった。
- ・忘年会の客は金曜日、土曜日に集中し、平日は閑散としていた。例年に比べると忘・新年会企画の折込みチラシも少ないように感じた。

ペンション

- ・11月、12月は何かイベントを企画しないと客が山の方のペンションまでは来ない。

タクシー

- ・不況ムードは変わらず忘年会は減った様子で、クリスマスや年末も家庭で過ごす人が増えたためか輸送人員は少なかった。
- ・例年この時期は大口の予約が多数入っていたが、今年は相当減少している。また、いつもなら深夜まで賑わっていた街が、今年は例年になく帰り客が多く深夜は閑散としており、輸送客数は減少した。ガソリンの小売価格が下降している中、LPG価格は3ヶ月連続で上昇してきており、LPGの割高感が出てきている。

情報関連サービス

- ・ウィンドウズ7のビジネスシーンでの使用のメリットが浸透されるまでソフトの切り替えには時間が掛かりそうであり、予想よりも受注は見込めない状況である。

税理士

- ・メディアでは失業率の上昇、新卒者の就職難、景気や業績は軒並み前年比何パーセント減少など不況を煽る言動や強調するような報道ばかりが目立つが、戦後の復興からバブルを経て、ようやく原点に還ることができる時代になりつつあるのではないかと。「還暦」という意味が解るような気がする。

倉庫

- ・昨年末に国交省の発表した統計では、ここ15年間毎年1500社ずつ増えてきたトラック運送会社の数が2008年度は減少に転じた。不況を実感させられる結果となった。

マッサージ

- ・先のことは判らないが景気が良くなる材料が見つからないため、慎重な経営をしていきたい。

理容

- ・期待したほどの状態までには遠く、まだ辛抱しなければならないようだ。業界内では不況を打破するためのアクションをおこしつつあるようだ。

美容

- 全般的に暇という事を何度となく聞いた。12月中も忘年会などを開こうという声が少なかった。
- 以前は年末に向けて来店される方が多かったが、今年は年末年始だから髪を切るという方が少なくなってきた気がする。来店のリズムが長くなってきている。